

平成 28 年度「大阪市英語力調査」（「英検 IBA」）に おける南中学校の結果の概要と今後の取組について

大阪市では、生徒の英語力の充実と向上を図るため、大阪市教育振興基本計画*に基づき、英語イノベーション事業*の一環として、「大阪市英語力調査」（「英検 IBA」）を実施いたしました。この調査の目的は、生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、学校における英語の指導の改善を図ることです。

学習指導要領における中学校英語の目標は、「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う」と示されております。本調査で測定できるのは英語力の一部ですが、本校では、結果をふまえ、生徒の総合的な英語力向上を目指してまいります。

- 1 目 的
 - (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
 - (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の改善、工夫に役立てる。

2 対 象 大阪市立全中学校 生徒 1～3年生

※本校では

3年生	48人	平成28年11月8日（火）実施
2年生	38人	平成28年11月7日（月）実施
1年生	45人	平成28年11月8日（火）実施

3 内 容

学年	英検 IBA の 種類	英検（目安）	テスト内容		満点 スコア
			リーディング問題	リスニング問題	
3年	テストC	英検準2～5級レベル	35 題	30 題	1100 点
2年	テストD	英検3～5級レベル	35 題	30 題	1000 点
1年	テストE	英検4級・5級レベル	35 題	25 題	800 点

*大阪市教育振興基本計画…本市の教育振興のための施策に関する基本的な計画

*英語イノベーション事業…本市の英語教育強化を図るための事業

■ 調査内容

学年	英検 (目安)	テスト内容		満点 スコア
		リーディング問題	リスニング問題	
3 年	英検準 2 級～ 5 級レベル	35 題	30 題	1100 点
2 年	英検 3 級～ 5 級レベル	35 題	30 題	1000 点
1 年	英検 4 級・ 5 級レベル	35 題	25 題	800 点

■ 調査結果

【「語い・熟語・文法」「読解」「リスニング」の値は分野別平均正答率(%)】

3 年	学校平均スコア(点/1100 点)	語い・熟語・文法	読 解	リスニング	英検 3 級レベル以上の割合 (%)
	752.5 点	57.9 %	61.7 %	57.8 %	50.0 %
	市平均スコア(点/1100 点)	語い・熟語・文法	読 解	リスニング	英検 3 級レベル以上の割合 (%)
	723.9 点	54.0 %	56.6 %	51.1 %	38.9 %
2 年	学校平均スコア(点/1000 点)	語い・熟語・文法	読 解	リスニング	英検 4 級レベル以上の割合 (%)
	663.7 点	63.9 %	57.7 %	65.1 %	63.2 %
	市平均スコア(点/1000 点)	語い・熟語・文法	読 解	リスニング	英検 4 級レベル以上の割合 (%)
	650.6 点	64.1 %	58.4 %	61.8 %	61.4 %
1 年	学校平均スコア(点/800 点)	語い・熟語・文法	読 解	リスニング	英検 5 級レベル以上の割合 (%)
	519.4 点	62.6 %	50.4 %	63.8 %	77.8 %
	市平均スコア(点/800 点)	語い・熟語・文法	読 解	リスニング	英検 5 級レベル以上の割合 (%)
	509.2 点	63.7 %	50.0 %	61.6 %	80.6 %

■ 結果の概要と今後の取組について

学年	結果の概要と今後の取組
3 年	全評価項目で平均を上回っているのでこのまま各分野の力を伸ばしていきたい。 英検の本試験(受けたい者だけが受けている)でも 3 級の最終合格率は 50%ほど。英語が苦手な者も含めての試験で 50%は、なかなか良い結果が出ていると考えてよいと思う。
2 年	平均スコアとレベルの割合では平均を上回っているが、「語彙・熟語・文法」「読解」ではわずかに平均を下回っている。特に「語彙・熟語」は、外国語学習の基礎となり、高い成果を出すには必須のものであるから、帯授業やモジュール授業を通して、蓄積していかなければならない。
1 年	学校平均スコアが市平均スコアを上回っているにも関わらず、「語彙・熟語・文法」やレベルの割合が市平均を下回っているのは、学年内の成績のバラつきが大きいからと考えられる。習熟度別授業を活用して、この差を小さくしていく。